

平成30年度 柏市教職員人材育成指標

教職員の姿	資質・能力	ステージ	第1ステージ (基礎形成期)	第2ステージ (伸長期)	第3ステージ (充実期)	
			基礎的・基本的な能力を身に付けるとともに、実践力を磨き、組織に活力を与え、教職の基盤を固める(学級・教科担当等)	専門性を高め、それらを生かし、チームリーダーとして推進力を発揮する(学年・分掌等のリーダー)	学校のめざす方向を理解し、豊富な経験を生かし、積極的に人材育成や学校運営に参画する(学校全体のリーダー)	
教職員の資質	教育愛		教職への誇りと強い情熱をもち、児童生徒への愛情をもった教職員			
	使命感・責任感		高い倫理観をもち、児童生徒と真剣に向き合う教職員			
	向上心・研修意欲		広い視野をもち、常に自らの課題を設定し、学び続ける教職員			
	同僚性		相互に力量を高め合い、連携協力して課題を解決する教職員			
教育者としての愛情と使命感を持ち、相互に力量を高め合い、連携協力して課題を解決する教職員	生徒指導力	個別指導	①児童生徒理解(見立てる)力	□児童生徒の発達段階の特性を知り、多面的・総合的に児童生徒を理解することができる。	□個別指導を進めるうえで必要な知識・技能を理解し、効果的な指導ができるとともに、組織の中でリーダー的役割を担うことができる。	□個別指導に関する専門性の高い理論・技術を習得し、教育活動の中に生かすとともに、学校の指導的な役割を担うことができる。
			②信頼関係を構築する力	□児童生徒の問題(いじめ、不登校、学力不振等)に対して、管理職や他の教職員の指導助言のもと、組織的な対応ができる。		
			③教育相談対応力			
	集団指導	①集団を理解する(見立てる)力	□集団づくりや集団を理解する理論を身につけ、よりよい集団をつくることことができる。	□集団指導の方法原理を理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら効果的な指導ができるとともに、学校で推進的な役割を担うことができる。	□集団指導の方法原理を教育活動の中に生かすとともに、校内に広めることができる。	
		②ルールやマナーを習得させる力	□一人一人を大切に、他者を尊重するとともに、自己存在感や自己実現の喜びが実感でき、共感的な人間関係を築くことができる。			
		③人間関係(教師と子ども・子ども同士)づくりの力				
	授業構想	①実態把握力	□学習指導要領の内容を理解し、ねらいを明確にすることができる。	□「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、単元や授業を構想することができる。	□育成すべき資質・能力を明確化し、創意工夫した教材を開発することができる。	
		②教材研究力	□「指導と評価の一体化」の意味を理解し、授業の計画を立てることができる。	□効果的な評価の機会を設定し、単元全体を見通した指導と評価の計画を立てることができる。	□「主体的な学び」につなげる評価方法を把握し、教科の目標に迫る授業を構想することができる。	
		③授業デザイン力				
	授業展開	①意欲向上力	□学び合い等の場面を取り入れた授業を展開することができる。	□言語活動の充実を図ることで、思考力・判断力・表現力や意欲を高める指導を行うことができる。	□主体的・能動的な活用・探究の学習を展開することができる。	
		②授業コミュニケーション力	□児童生徒の興味・関心・意欲を引き出す発問・指示・説明・板書・ICT活用等を適切に行うことができる。	□指導技術や指導形態を工夫し、学習状況に応じて、適切に補充的・発展的な指導をすることができる。	□必要な知識・技能を教授しながら、児童生徒自身が学び合い・高め合う授業を実践することができる。	
		③即時対応力				
④教授活動力(発問・板書・ノート指導・ICT活用)		□基本的な学習規律を指導することができる。				
⑤学習規律指導力						
授業省察・改善	①振り返り力	□「第1ステージ基本チェックリスト」を活用し、指導方法の工夫・改善を行うことができる。	□「授業の改善チェックリスト」を活用し、継続的な授業改善に取り組み、自己の専門性を向上させることができる。	□自校の「学ぶ意欲と学ぶ習慣」の確立に向けた課題を明らかにし、改善策を考え、実践することができる。		
	②指導方法改善力					
授業研究・研修	①能動的研修力	□進んで授業を公開し、他の教職員の指導・助言を受け、授業を改善することができる。	□研究授業を積極的に行い、授業力を向上させることができる。	□今日的な教育の動向を把握し、求められる専門性を追究することができる。		
	②専門性探究力	□他の教職員の授業を積極的に参観し、授業に生かすことができる。	□校外の研修等に進んで参加し、専門的知識・技能を習得することができる。	□研修等で得た情報や自らの実践を発信することができる。		
組織経営力	組織マネジメント(学級・学年・学校)	①状況把握・分析・課題発見力	□学校教育目標を理解し、学級経営や教科経営の方針を立て、一貫性のある指導を行うことができる。	□学校教育目標の実現に向けて手段や方法を工夫改善し、教育活動を計画的に推進することができる。	□学校の課題を的確に把握し、問題提起するとともに、改善策を提案するなど、学校運営に進んで参画することができる。	
		②目標設定力	□担当する校務分掌について企画立案したり、迅速・正確に処理したりすることができる。	□校務分掌について、企画立案する際、事前の調整等により効率化を図ることができる。	□学校運営において、関係者間の調整・進行管理・関係教職員への指導助言を行い、教育活動を活性化させることができる。	
		③企画・調整力				
		④実行力・統制力				
資源(人・もの・情報・学校図書館・時間・資金等)の活用	①資源開発・活用力	□学校内外にある資源を教育活動に生かすことができる。	□様々な情報を適切に認識、分析、評価、判断し、教育活動に効果的に活用することができる。	□学校の状況の改善や課題の解決のために、資源の開発と適切な活用方法を考え、教育活動全体の充実を図ることができる。		
	②情報収集・分析力・発信	□スケジュール管理に努め、時間や提出期限等を守ることができる。	□適切な物品管理や予算執行により、教育活動の充実を図ることができる。			
	③時間・スケジュール管理力					
	④財務管理力					
危機管理	①早期発見	□危機管理の重要性を理解し、危機を察知した場合に、素早い行動をとることができる。	□予想される危機を想定し、未然防止のための工夫や準備を行うとともに、早期発見、早期対応に努めることができる。	□学校安全計画等の見直しを通して、自校の課題を分析し、平常時の未然防止、危機発生時の対応や再発防止を組織的に推進することができる。		
	②早期対応	□安全や職務を遂行する上で生じた課題等について、時機を逸することなく「報告、連絡、相談」することができる。				
	③再発防止					
	④未然防止					
連携・協働性	同僚との連携・協働	①コミュニケーション力	□同僚のアドバイスを謙虚に聴いたり、疑問点や悩みを相談したりしながら、同僚と協力して、円滑に職務を遂行することができる。	□互いの課題や悩みに気付き、相談に応じるなど、支え合い学び合う環境をつくるとともに、経験の浅い教職員を積極的に支援することができる。	□管理職や教職員間の意思疎通を図り、組織力を高めるとともに、後進の育成を行うことができる。	
		②情報共有力				
		③チーム対応力				
		④互いに学び合う力				
保護者・地域・関係機関との連携・協働	①保護者対応力	□保護者、地域、関係機関と丁寧に関わり、連携・協働して教育活動を行うことができる。	□教育活動における課題解決のため、保護者、地域、関係機関と円滑に連絡・調整ができ、連携・協働して対応できる。	□保護者、地域、関係機関に対して、学校の考えを明確に示すとともに、連携・協働して教育活動をより高いものにする事ができる。		
	②地域連携力					
	③関係機関連携力					
	④情報発信・収集力					